むすびプロジェクト

「むすびプロジェクト」は当グループのリハビリ病院を退院された患者さんが、
その人らしく生きいきと生活していただけるよう、支援するための取り組みです。
今回はその取り組みのひとつをご紹介いたします。

第5回 むすびプロジェクト研修会

ケアマネジャーの視点とケアプラン作成のプロセスを学ぶ

令和7年8月4日、東京品川病院にて第5回むすびプロジェクト研修会を開催しました。現地会場とZOOM合わせて関東カマチグループ職員725名が参加し「ケアマネジャーの視点とケアプラン作成のプロセスを学ぶ」をテーマに、ご講演いただきました。講義では『ケアマネジャーは患者さん本人よりも家族と関わる時間が長く、どうしても家族の介護負担を優先的に考えてしまう。このため病院スタッフの目線で患者さんの声を聞き、私たちに届けてほしい』という具体的なアドバイスも頂けました。また『患者さんの10年後20年後、どう最期を迎えるのかまで考え、長期的な視点で支援内容を検討している』といったお話もあり、退院後に長く続いていく生活期を見据えた退院支援の大切さを感じました。今回の研修を活かし、ケアマネジャーと我々病院スタッフにて情報共有を積極的に行い、質の高い退院支援に努めていきたいと思います。

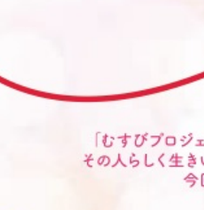
▲ あおぞらの里 馬橋ケアプランセンター
主任ケアマネジャー 小椰淳弥氏

インスタグラム Instagram

@SHINUTSUNOMIYA_REHA

新宇都宮リハビリテーション病院公式Instagramでも、病院情報や行事予定など紹介しております♪

交通のご案内



※ 新4号方面よりお越しの方は、交通ルールに従い、宇都宮駅東口方面へお進みください。

お車でのご来院

- 東北自動車道　宇都宮ICより約40分
- 東北自動車道　鹿沼ICより約30分
- 北関東自動車道　宇都宮上三川ICより約20分
- JR宇都宮駅東口より鬼怒通りを進み約6分

公共交通機関でのご来院

- LRT

「JR宇都宮駅東口」停留場より約5分

最寄停留場名

「陽東3丁目（新宇都宮リハビリテーション病院前）」 より徒歩**3**分

カマチグループ
一般社団法人 巨樹の会
新宇都宮リハビリテーション病院
〒321-0941
栃木県宇都宮市東今泉2丁目5番31号
TEL 028-666-4880
FAX 028-666-4887

日本医療機能評価機構 認定第 JC2559 号

当院HP

一般社団法人 巨樹の会　新宇都宮リハビリテーション病院

新宇都宮タイムズ

Shin-Utsunomiya Rehabilitation Hospital PR Magazine

2026 Vol.13

CONTENTS

2 | ・入職式
・関東KG合同学術大会
・TQM発表大会

3 | ・済生会宇都宮病院とリレーカンファレンス
・リハビリテーション・ケア 合同研究大会

4 | ・日本老年療法学会学術集会
・栃木県リハビリテーション学術大会
・研究大会

5 | ・健康教室-ヒートショック-
・健康教室-オーラルフレイル-
・出張健康教室

6 | ・心の交流会
・忘年会
・クリスマス会
・もちつき

7 | ・BLS勉強会
・認知症ケア勉強会
・防災訓練

8 | ・むすびプロジェクト
・Instagram
・交通のご案内

入職式

4月1日

令和8年度入職式を執り行い、新たな職員30名を迎えました。

新入職員は、それぞれの決意を胸に当院での第一歩を踏み出しました。

新たな仲間を迎え、職員一同、より一層連携を深めながら、質の高い医療・リハビリテーションの提供に努めてまいります。

総務課　丸山

関東カマチグループ合同学術大会

2月28日

令和8年2月28(土)、「生活期の退院支援」というテーマで関東カマチグループ合同学術大会が開催されました。回復期では重症度、医療依存度の高い患者さんは、自宅退院が困難であるケースが多く報告されています。一方で患者さん本人・ご家族の思いは、やはり「家に帰りたい」と願っています。

今回、多職種で連携し、自宅退院を実現できた症例を報告させていただきました。内容としては、看護師が家屋調査に同行、シミュレーション室を活用した宿泊介護練習を繰り返し行いました。多職種がそれぞれの技術と知識を活かし、患者さんとご家族へ寄り添い関わってきたことで、自宅退院に繋げられ、希望を叶えることができたと感じました。また、回復期ならではの多職種連携という強み、重要性を再認識することができました。

今後も患者さん一人一人のため、多職種における連携を密に図り、退院支援に努めていきたいと思います。この度は、このような賞をいただき、ありがとうございました。

看護部　鷹箸

関東事務部 TQM発表大会

11月15日

令和7年11月15日(土)、関東カマチグループの事務部でTQM発表大会が開催されました。各病院が発表演題を持ち合う中、当院は令和5年より当自治体によって取扱いが変更となった紙おむつについて「おむつの廃棄方法変更による業務改善」をテーマとし、令和5年に運用を変更してから現在に至るまでを分析し、活動を開始しました。

おむつの運搬を看護補助者から清掃業者に委託することで看護補助者の運搬所要時間を0分とすることができた点、廃棄方法を産業廃棄物から一般廃棄物へと変更することで大幅なコスト削減の推移を発表した結果、銅賞を受賞することができました。

今後、行政の動向にも目を向け病院の医療・サービスの質の向上に貢献していきたいと考えます。

総務課　本間

済生会宇都宮病院×新宇都宮リハビリテーション病院 リレーカンファレンス

1月21日

済生会宇都宮病院の皆さまをお迎えし、新宇都宮リハビリテーション病院にて「リレーカンファレンス」を開催しました。

本カンファレンスでは、急性期から回復期へと切れ目のない医療連携を図ることを目的に、さまざまな視点から意見交換を行いました。

また、懇親会では多職種の皆さまと交流を深め、職種の枠を超えた有意義な時間となりました。

今後も地域医療のさらなる充実に向け、関係機関との連携を深めながら、地域全体で患者さんを支える医療体制の構築に取り組んでまいります。

連携室　海老原

リハビリテーション・ケア合同研究大会

11月21日~22日

令和7年11月21日(金)~22日(土)、大阪で行われた「リハビリテーション・ケア合同研究大会」に参加しました。

最新の医療機器の体験や発表を聞き、新たな知見を得ることができました。

ポスター発表では、限られた時間の中で、伝える難しさを感じるとともに、多職種から様々な視点からのアドバイスを頂き、多くの学びを得ました。

今回の発表で学んだことを、今後の臨床場面へと還元できるよう努めていきます。

リハビリテーション課　飯田

日本老年療法学会学術集会

12月6日~7日

令和7年12月6日(土)~7日(日)、「日本老年療法学会学術集会」に参加しました。

回復期病棟や理学療法といった従来の枠組みにとらわれず、「老年療法」という視点からポスター発表を行いました。

今回の学術集会で得られた知見を、今後の臨床現場にしっかりと還元していきたいです。

リハビリテーション課　門脇

第1回 栃木県リハビリテーション学術大会

1月25日

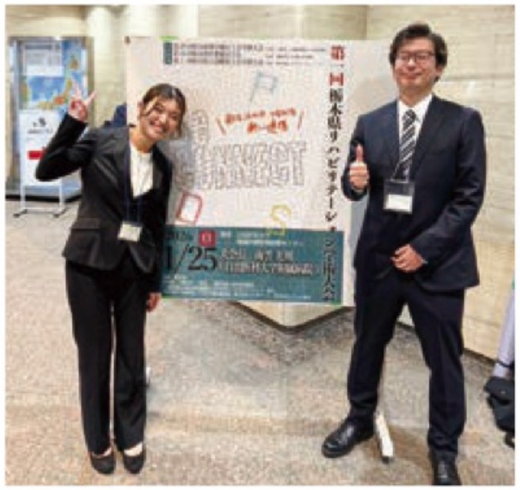
同時開催
第29回栃木県理学療法士会学術大会 / 第15回栃木県作業療法学会
第1回栃木県言語聴覚士会学術大会

令和8年1月25日(日)、自治医科大学にて開催された「第1回栃木県リハビリテーション学術大会」に参加しました。

県内の病院、施設でご活躍されている理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の症例発表を聞くことができ、新たな知見を得ることができました。また、回復期とは異なる、急性期、生活期のリハビリテーションについて知る機会となり、臨床において大変参考になりました。ポスター発表では自分の症例を発表し、活発なディスカッションを行えたため、自己を見つめ直す良い機会となりました。

今回の経験を日々の臨床に活かし、患者さんに還元できるよう努めていきます。

リハビリテーション課　大木



研究大会

2月6日~7日

令和8年2月6日(金)~7日(土)、回復期リハビリテーション病棟協会主催の「第47回研究大会」が米子市で開催され、参加しました。

日々の臨床で積み重ねてきた取り組みを発表し、他施設の発表や意見交換を通して、多くの学びを得る貴重な機会となりました。

当日は雪の影響による交通トラブルもありましたが、無事に発表を終えることができました。

今後も研鑽を重ね、より質の高いリハビリテーションの提供に努めてまいります。

リハビリテーション課　長谷川

健康教室 ~日常生活での血圧の変化について、ヒートショックとは何か~

11月25日

令和7年11月25日(火)、健康教室を開催しました。

今回は、「日常生活での血圧の変化について、ヒートショックとは何か」というテーマで、日常生活で気を付けたいポイントや予防方法などの講義を行いました。

参加された皆さまは、熱心に耳を傾けてくださり、講義後には多くの質問も寄せられるなど、大変有意義な時間となりました。

今後も、地域の皆さまに役立つ医療・健康情報を発信してまいりますので、ぜひお気軽にご参加ください。

看護部　髙橋

健康教室 ~オーラルフレイル~

2月10日

令和8年2月10日(火)、地域住民の方を対象に「オーラルフレイルと栄養」をテーマとした健康教室を開催しました。当日は、34名の方にご参加いただきました。

講義では、フレイルやオーラルフレイルの概要について説明するとともに、オーラルフレイル5チェック表を用いて、参加者それぞれにチェックを行いました。また、予防のための「パタカラ体操」を童謡「ふるさと」の曲に合わせて実践し、皆さんで楽しく取り組みました。さらに、オーラルフレイルを予防するための食事のポイントや、バランスの良い食事、噛む力を鍛える食事の工夫やおすすめレシピなどについても紹介しました。参加者の中には、写真を撮ったりメモを取ったりする姿も見られ、関心の高さがうかがえました。

オーラルフレイルは、「食べられない」から始まる負の連鎖とも言われています。食欲があっても噛む力や飲み込む力の低下から食事の偏りや低栄養、筋力低下へと進み、さらに食べられなくなります。今回の健康教室を通して、オーラルフレイルについて、少しでも知っていただき、日常生活の中での小さな工夫と行動変容によって、予防・改善につなげていただけたらと思います。

栄養課　石田

出張健康教室

2月20日

令和8年2月20日(金)、出張健康体操教室を開催しました。「継続して行うことができる健康体操」をテーマに、安全に誰でも取り組むことができる無理のない体操を中心に講習を行いました。

参加された皆さまは健康への意識が高く、真剣に取り組まれている様子が印象的でした。また、「もっと教えてほしい」といったご要望もいただきました。

今後も、より良い体操や健康に関する情報を提供できるよう取り組んでまいります。

リハビリテーション課　軍司

心の交流会

2月17日

令和8年2月17日（火）、「第2回心の交流会」を開催しました。

退院後もその人らしく、生き生きと生活していただけるよう、患者さんとスタッフの笑顔あふれる交流の時間となりました。

今後も、退院後の生活を支える取り組みを続けてまいります。

連携室　海老原

忘年会

12月17日

令和7年12月17日(水)、ホテル東日本宇都宮にて忘年会を開催しました。当日は、中野関東統括本部長にご来臨いただきました。

余興では、各チームがさまざまなアイディアを出し合いながら工夫を凝らし、練習を重ねた出し物が披露され、会場は笑顔と拍手に包まれました。さらに、抽選会では名前が呼ばれるたびに、歓声が上がり、会場は大いに盛り上がりました。おいしい料理を囲みながら、部署を越えて交流が深められ、和やかな時間となりました。

総務課　丸山

クリスマス会

12月23日

毎年の恒例のクリスマス会を開催しました。「ジングルベル」や「きよしこの夜」をみなさんで合唱し、「赤鼻のトナカイ」の音楽に合わせて楽しく身体を動かしました。サプライズでサンタクロースとゆかいな仲間たちが登場し、会場は笑顔と歓声に包まれました。

患者さんのたくさんの笑顔をみることができ、私たちスタッフにとっても心温まるひとときとなりました。　リハビリテーション課　飯島

もちつき

12月26日

カマチグループ栃木エリア3病院合同による「もちつき」を開催いたしました。

当日は、病院も部署も越えて多くの職員が参加し、会場は笑顔と活気に包まれました。親睦を深めるあたたかな交流の場となりました。

総務課　田代

BLS院内勉強会

1月26日~30日

院内にて「BLS勉強会」を実施しました。万が一の事態に備え、一次救命処置（BLS）の基本手技や対応手順について、実際の場面を想定しながら、実技を行いました。

正しい知識と技術を共有することで、職員一人ひとりの意識と対応力の向上につなげられるよう、今後も安心・安全な医療を提供できるように、継続して取り組んでまいります。

看護部　阿久津

認知症ケア勉強会

2月26日

院内にて、「認知症ケア勉強会」を開催しました。勉強会では、認知症に関する基礎知識や認知症ケア加算、認知症高齢者の日常生活自立度について学びました。認知症は、いったん正常に発達した知的機能が持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたす状態とされています。症状を理解するだけでなく、認知症の方とどのように関わるかを考えることが重要です。

当日は体験を通して、思うように気持ちが伝わらない、もどかしさや混乱する気持ちを実際に体感しました。知識だけでなく、相手の立場に立って、考える視点の大切さを学ぶ機会となりました。

今後も職員一人ひとりが理解を深め、より良い認知症ケアの提供につなげていきます。

看護部　知久

防災訓練

3月3日

令和8年3月3日（火）、防災訓練を実施しました。

今回は消防設備点検と訓練を同日に実施し、火災発生時の警報発報や消防署への通報訓練、防煙垂れ壁の作動確認など、災害発生時の対応力向上を目的とした実践的な訓練を行いました。

また、担架の使用経験がない職員にも実際に操作を体験してもらうことで理解を深めるとともに、消防設備の作動時の動きや対応について、参加者および院内職員への周知を図ることができました。

一方で、訓練時の動きにばらつきが見られる場面や、実際の避難時には対応が難しいと考えられる動きも確認され、課題も明らかとなりました。

今後は今回の反省点を踏まえ、より実践的な訓練を実施し、災害発生時に迅速かつ適切な対応ができるよう、防災体制の強化に努めてまいります。

総務課　本間